

社会：人間関係づくりを生かした地理的学習

1 MAPを生かした指導の工夫

社会科の学習には、社会認識を深めたり、基本的知識を身に付けたりする学習と社会の変化に主体的に対応するための方法を身に付ける学習の2つがある。その中で、「もっと知りたい。もっと身に付けたい。もっとかかわりを大切にしたい。」という基本的要求を促し、喚起させるためにMAPの体験学習サイクルの手法を生かした授業を工夫した。

2 単元名 世界の国々と地域区分

3 指導対象学年 1学年

4 単元の目標

(1) 教科としての目標

主な国の位置と名称を地図を用いて理解させるとともに、地図や地名への関心を高める。

(2) MAP導入のねらい

グループ学習を中心に行う中で、話し合いがスムーズに行える環境や発表しやすい雰囲気をグループ内やクラスにつくるためにMAP活動を取り入れていく。また、発表や話し合いの中に、チャレンジ的要素を取り入れ、体験学習サイクルを回すことで確かな学びを体得させたい。

5 指導に当たって

社会科学習では、自分で調べたり、発見することにより学ぶ意欲や自ら考えて解決しようとする態度が培われる。グループ学習の中で、話し合い・まとめ・発表の活動を重視し、アドベンチャー的要素を取り入れることで自分の意思を伝えたりすることの楽しさを体験できることができると考える。

6 単元の指導計画 (7時間)

世界の国を知ろう	6時間	世界の国々の構成と地域区分(調べ学習含む)
世界旅行	1時間	世界旅行に出かけよう(本時)

7 本時の指導

(1) 本時のねらい

学習目標の達成に向けて、グループと個人が発表や話し合いというかかわり合いの中で、学習を進める。

(2) 指導に当たって

各グループで調べた世界旅行を発表し合い、国名の習得をさらに図りたい。  
さらに、グループ活動の中での教え合いや発表しようとしてチャレンジすることにより、課題解決ができた達成感を味わわせたい。

(3) 授業の展開

段階	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	
導入 (6)	1 世界の略地図を書く 2 五大陸を思い浮かべる 3 本時の学習課題の把握 4 目標設定	・前時の授業を思い出し、世界の略地図を描く。 ・五大陸の一つを頭の中にイメージする。 ・各班で調べた世界旅行を発表し、どんな国が出てくるかを発見する。 <b>世界旅行に出かけよう</b> ・個々の目標を決める。	一斉 個
展開 (34)	5 各班の発表 ①世界の文学散歩の旅 ②料理を食べる旅 ③スポーツ観戦ツアー ④民族衣装を調べる旅 ⑤野生動物ウォッチングツアー 6 各班の話合いと発表	・世界の国々の名称と位置を確認しながら、さまざまな国を旅行する計画を発表する。 ・各班の発表をしっかりと聞く。 ・発表の中の国名を白地図にチェックし、書き込む。 ・国の位置が分からない時は、グループで教え合う。 ・他の班の発表の中に出てきた、行きたい旅やツアーについて話合い、発表する。	班 班
終結 (10)	7 世界旅行ツアーベスト3の決定・発表 8 まとめ ★ どんな国が出てきたか、地図プリントに書き込む。 ★ 次時の予告と宿題の確認。	・どのツアーが人気があるのか、挙手をして決める。 ・プリントに書き込む。 ・知り得た国名を今後の授業に生かしていく。 ・今日の学びを生かして発表ができたかをノートに書き、まとめる。	一斉 個

教師の働き掛け(MAPを導入したねらい)	MAPの考え方を生かした指導の留意点	
	体験学習サイクル	GRABBSSチェック
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートに世界地図の略地図を描かせ、本時学習の準備をする。</li> <li>・五大陸の1つを思い浮かべ、どんな国が出てくるかをイメージさせる。</li> <li>・いろいろな旅行があってもよいことを全員で確認する。</li> <li>・本時の目標を把握させながら、生徒自らの目標を立てられるようにする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業に臨む態度・姿勢はできているか。</li> <li>・安心して自分の考えを言える雰囲気をつくる。</li> <li>・本時の学習内容に関心をもっているか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全員で発表ができるように声掛けをする。</li> <li>・国名の位置がわからない時はお互いに積極的に教え合うよう助言する。</li> <li>・他の班の発表を聞いて、グループ全員で話し合わせる。</li> <li>・自分たちのグループにはない旅行を大切にする。</li> <li>・一人一人自分のことばでまとめさせる。</li> <li>・前回とは違う生徒に発表させ、発表の機会を増やす。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">発表することの体験</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">グループ、個人の観察、振り返り</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ全員が発表することにかかわっているか。</li> <li>・互いに教え合う雰囲気があるか。</li> <li>・一人一人が安心して自分の意見を言える雰囲気であるか。</li> <li>・一人一人の考えが生かされるようにまとめようとしているか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つのツアーから人気ベスト3を挙手して選ばせる。</li> <li>・地図プリントに書き込む。</li> <li>・知り得た国名を個々に確認し、達成感をもたせる。</li> <li>・知り得た国名を今後の授業にも生かしていくようにアドバイスをする。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">目標到達による一般化</div> <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">次時に適用</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の意見をクラスの中で出せる雰囲気がみられるか。</li> <li>・目標の達成ができたか。</li> <li>・個々に充実感が感じられるか。</li> <li>・授業の導入時や復習などに取れ入れる。</li> </ul>

#### (4) 評価

- ・意欲的に興味をもって取り組むことができたか。
- ・グループのなかで互いに教え合う雰囲気があったか。
- ・一人一人の考えが活かされているか。
- ・一人一人が安心して自分の意見を言える雰囲気があったか。

### 8 MAPを生かした効果、まとめ、考察等

授業というのは、教師と生徒、生徒同士の良い関係により成立し、学習効果が上がるものである。MAPを授業に導入する目的は、学習効果をすぐに求めることではなく、生徒の「発見」や「気づき」、「分かることの楽しさ」を喚起することである。具体的には、教師が生徒の意欲を喚起するための働き掛けを工夫したり、意図的な活動を設定したりすることである。

社会科の授業にMAPの要素を取り入れたのは、生徒たちが互いの考えを共有することで、「自分と同じ考えだ」、「これがわかった」という生徒が増え、「もっと学んで身に付けたい」、「もっと人とのかかわりを大切にしたい」という人間本来の基本的欲求が高まるからである。

授業のなかに体験学習サイクルを位置付けることによって、体験から得られた学びが確かなものになって、次の学習につながっていくと考えられる。本指導では、＜実体験＞⇒＜観察・振り返り＞⇒＜一般化＞までとし、次からの学習に、⇒＜適用＞させるという位置付けで活用した。

MAPの手法を授業に効果的に生かすためには、グループ学習での人とのかかわりを大切にしながら、体験学習サイクルを明確に位置付ける必要がある。今後も、これまでの授業にMAPの手法を取り入れながら、多様な視点で取り組んでいきたい。